

「学び・対話し・分かち合う」研究会シリーズ

シェア ラボ



追手門学院
成熟社会研究所

れぽーと

SHARE LAB. report

vol.2

まなぶ

「シェアラボれぽーと」はシェアラボの内容や話し合ったコトをみんなにお知らせするニュースペーパーです

2014.10.9. 木 /16:30-19:00

会場：追手門学院大学 食堂棟3階
シアトルズベストコーヒー奥スタッフコーナー

●トークゲスト●

今堀 洋子氏
(追手門学院大学
経済学部 准教授)

柵 富雄氏
(富山インターネット市民塾
推進協議会事務局長)

発行：追手門学院 成熟社会研究所

シェアラボ ってなに？

「シェア（分かち合う）」「ラボ（研究）」は、共通テーマを軸に人と社会のこれからを考える研究会シリーズ（年間計5回を予定）。

学院内外からのゲストによる講演+みんなでギロンするワークショップを行います。

毎回、身近な動詞をテーマに、現状とこれからを考えます。

世代や専門の垣根を越えて、みんなで学び・対話し・分かち合うことで、新しい発見と気づきがきつとある！

ドリンク片手にリラックスした雰囲気で行い、関心のある方はどなたでもご参加いただけます！



プログラム①

みんなで・じぶんで・考える。

● お題はコチラ！

大学の学びとは!? 社会の学びとは!?

恒例のワールドカフェタイムからスタート。3～4人の小グループに分かれてお題について意見交換。「まなぶ」にまつわるコトを思い巡らせ、まなぶモードになっていきます。キーワードや気になった言葉は机に広げた模造紙に書き込んで記録。誰かの意見に便乗して、深めたり広げたり自由自在に！記録された意見の数々、ご紹介します！

大学には最近増えました

「社会人学生」

- 若い人と接することは大切●シニアが気軽に大学に行けるようにする
- 生徒のタイプ：目的意識、意欲の高い人 or なんとなく●テーマに深みがある人も多い●論文で仕事の経験をまとめたい人もいる●地域・年代がばらばらで多様な価値観がある

こんな意見がありました！



どちらか一方だけではダメなのかも？

「学び方・教え方」

●学びの基本である問いかけの方法、問いの立て方が分からない人たち●(学ぶ時には)「何の役に立つ？」を意識するように
 ●「先生徒(先生・生徒)」という視点～教師であり、生徒である(テーマや状況によって入れ替わりオールマイティであることはない)●教わる側の準備～知的好奇心を伝えて教えてもらう
 ●大学の授業で寝ている子はある意味正直な反応？ 教える側がどう参加させるかのスキルが必要●間違ったあとのフォローがないとリカバリーできない人●タテ・ヨコ・ナナメの学び方を90分授業にちりばめる(タテ=先生と先生、ヨコ=友達同士、ナナメ=例えば大学生が小学生に、大学生が高校生に、教えるという「近所の人か叱ってくれる」ような関係)●企業内で実施されているiPadの使い方を教えあう研修●誰かを教えることで人は育つ●大学の学びは受身的？(単位さえとれば…)な一方で先生の話を知りたい生徒も●社会の学びは主体的？～アンテナ力が必要(受身的な人にはアンテナは張れない)●塾の先生の話に影響を受けて将来の目標ができた(身近な人に学ぶ)

答えはないかもしれないけれど…

「学びとはなんだろう？」

●(学んだことの)意味を感じるのは卒業後からじわじわと●社会ですぐに役立つor50年後に役立つ(50年後に思い出してくれたら)●体力となる学問(じわ～っと学ぶ、漢方薬のように効いてくる、教養などの基盤)と技術的学問(特効薬のようにすぐに役立つ、実学、資格)との差異●悩み続ける、探求し続けること●やりたいことからゼミを選ぶ 気づくこと≠まなぶこと●興味関心を持つということ●新しい結合～誰も知らないつながりを見つける。イノベーション●複雑で解決が難しいから悩み(学び)続ける●具体的な体験や苦労から学ぶことは面白い





プログラム② ゲストトーク 今堀 洋子 氏

自分の体験は
すべてが学びに
つながっている

大学の教室を『共に学びあう』場へ

大学でミツバチプロジェクトなどのユニークな取り組みをされている今堀先生は、経歴もユニーク！これまでの数々の体験からの学びと大学のこれからを語っていただきました。

■循環社会では、価値や時間を「所有」でなく「シェア」することが、住まい方・暮らし方を解決していくことにつながると感じ、まずは自分から変わっていくことに。キーワードはスロー、シンプル、シェア、土とつながる…etc.

■自身が体験した**出会いと学び**のいろいろ ①山伏修験道体験（山形県羽黒）に年に2回参加。山伏というのは何も語らず、先達の言うことをすべて受け入れる。そこで思ったことは「体で体感してナンボ！」だった。②大人のためのサステイナブル・オルタナティブな世界の実現を目指しているシューマッハ・カレッジ（イギリス）には、学びの本質があった。掃除・料理・食事すべてが学びだった。③モモの家ではともに働き学びあう。④中野民夫先生のもとで国内留学、ファシリテーションから多くのことを学んだ。⑤ことば磨き塾では全身を耳にして！

■**大学での取組み** ニホンミツバチの生態を通して様々なことを学ぶ「追大ミツバチプロジェクト」では「主役（師）はミツバチ」という考えのもとで学びの実践、「自分地図」では内側をみつめて“自分が何を大切にしているか”に気づく。

■**大人数教室での授業～スマートフォンや居眠りに負けてしまう授業を改革**したい。三宅洋平さんのアイデア＝スマホ使いを逆に活用して「授業をTwitterでつぶやく」取り組みなども考えていけたら。

「山伏体験での学びは何でしたか？」という質問には「体のことをおろそかにしないこと」との答え。「授業に脈拍カウントや瞑想を取り入れてもいいかも」と、またユニーク授業アイデアが生まれていました！



「対話する」

活気ある事例満載！

言葉がどんどん広がる
グループディスカッション



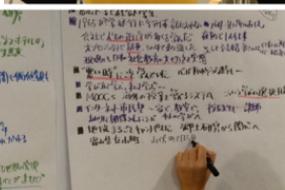
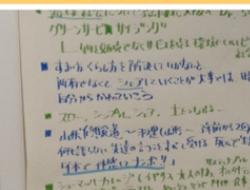
「学ぶ」

学生、職員、教員
から一般の方まで
多様な参加があり
ました



「分かち合う」

感想をシェアする
ことで新しい
気づきも



ゲストの方々
のお話を記録中！

実は講師お二人共
「山伏体験者」
という衝撃の
つながり発覚！



ゲストプロフィール

今堀 洋子氏 (いまほり・ようこ)

(追手門学院大学 経済学部ヒューマンエコノミー学科 准教授)

青山学院大学理工学部 (1990年)、大阪大学大学院 (博士/2004年)、(株)電通国際情報サービスにてシステムエンジニアとして勤務後、青山学院大学経営学部助手、追手門学院大学経済学部講師などを経て、現在追手門学院大学経済学部准教授。ダイアログ (対話) による共有プロセスを重視した講義を展開。「追大ミツバチプロジェクト」担当。



プログラム③ ゲストトーク

柵 富雄 氏

おしえる
おしえられる
を、固定しない

市民が講師、地域まるごとキャンパス
-インターネット市民塾で目指すラーニングシティ-

「インターネット市民塾」の仕組みの研究開発に取組まれた事務局長の柵さんに、発祥の地・富山での軌跡と現在の活動の広がりなどをお話いただきました。

■人生の中での**たくさんの学び**～バイト先の先輩からの教え、会社で学んだこと、夜勤の仕事や大きなプロジェクトでの経験と勉強。心が折れそうな時や、悪い境遇の時ほど学んでいた。現場で感じたのは「日本の社会教育の大切さ」。

■学びの新しい形、**インターネット市民塾**は、地域をまるごとキャンパスにできればと、富山県でスタート。誰もが市民講師となり、自主講座などを開催、まわりの人の期待に応えようとするのが本人の学びにつながる。自宅でも教室でも学べ、参加者は20～80代と幅広い。16年目を迎える今も変わらないのは「毎年数十人が講師デビューする」こと。これからも市民の出番づくりの応援を。

■市民塾の**講座は多彩**で、インターネットによるe-ラーニングだけでなく、地下1mに残る城下町富山の遺跡やお堀跡をめぐるまち歩き公開講座、立山博物館の貴重な収蔵品を遠隔映像で映し出し学芸員の解説付で学ぶ講座も。

■学びの**広がり**もある～講座の受講者が新しい講座を立ち上げたり、講座をきっかけに本格的に学びはじめて70代で大学に入学したり……！学び続けて人は若くなっている。

■**地域と大学**の役割のこれからは～大学は市民講師が学びを発展させる場として、また、地域で学び合いを興す人材を育てていく方向へ。地域の人材がみえるしくみへ！

「市民塾の受講者が学びはじめたきっかけはどんなことですか？」との質問には「様々です。シルバーの方が携帯電話の機種変更の際にスマホしか選択肢がなくて（講座でスマホを）学びはじめたらそれが結果的に友達づくりに。シルバーも新しい学びで新しいつながりができている」とのこと。ただ「学ぶ」だけには留まらないことが魅力だと感じました！

大学を卒業したあとも相談できる人が地域にいるといいのにな。

暮らしを「手間ひま」かけるものにとらえ直す。効率だけでなく無駄なことが必要！

他人に教えるには、まず「自分とは何か」を知ること。自分をみつめることからスタートを。

身体性を取り戻そう！頭で考えるだけでなく体とのバランスを大事にしよう！

後輩にどうやって教えるかということを探中！教えることは学びに。

「困る」からこそ「考える」ので「学ぶ」ことができる！

プログラム④ 感想をシェア

今日、学んだこと。感じたこと。

共通の言葉をもつこと、共通の体験をすることが、学びになる。

私の価値に気づいて教えてくれる…そんな人がまわりにいたらいいなあ。

「楽しんで儲ける」の発想はアカン！苦勞や悲しみが一番学びになる。

教師とは交通整理役。学生は教わるだけでなく自分の頭で考える時代へ！

「本」から学ぶだけでなく、もっと「人」から学ぼう！

「同じ釜の飯を食う」～寝食を共にして学び、仲間づくりや居場所づくりへ。日本人と留学生の教えあいの場なども。

ゲストプロフィール

柵 富雄氏 (さく・とみお)

(富山インターネット市民塾推進協議会 事務局長)

富山県立山町在住。1998年よりインターネット市民塾共同研究および社会実験を開始。インターネット活用教育実践コンクール「内閣総理大臣賞」受賞(文部科学省ほか2002年)2002年「富山インターネット市民塾推進協議会」設立・事務局長就任、2008年「NPO法人地域学習プラットフォーム研究会」設立・理事長就任。富山インターネット市民塾登録者は8500人を超え、地域ごとに市民塾が設立されるなど各地に波及している。

まとめ、のようなもの。

150 分間にぎっしりと詰まった「まなび」のエッセンスで、わたしたちはまた「まなぶ」ことの楽しさを再確認できました。

人は「まなぶ」生き物です。生まれた瞬間からいろいろなことを「まなび」、生きる術を身につけていきます。大人になれば積極的に「まなぶ」ことをしなくても生きていけるけれど、それはとっても味気ない気がします。

意識の持ち方次第で、日常のどこにでも「まなび」があります。ひとりひとりが「まなぶ」ことは日々の暮らしと社会をきっと面白く、元気にするはずです。

シェアラボが参加者にとっての「まなび」の場ときっかけになるように、わたしたちもしっかりと「まなんで」いきます!!(な)



今後のシェアラボは・・・

「あきなう」

「すまう」「つたえる」

などをテーマに開催予定です

追手門学院

成熟社会研究所

〒540-0008

大阪府中央区大手前 1-3-20

追手門学院 大阪城スクエア内

TEL : 06-6948-5835

FAX : 06-6948-5836

○茨木キャンパス内分室

〒567-8502

大阪府茨木市西安威 2-1-15

研究棟 1階 107号

シェアラボについてのご意見・お問合せは…
seijuku@otemon.ac.jp (担当：中川) まで !!